- 2) 学会賞推薦委員が以下の通り変更になった。
 退任 東海 正 (学会賞選考委員会委員に選出のため)
 選出 会田勝美 (学会賞推薦委員選挙結果次点者)
- 3) 平成 18 年度大会開催を中国・四国支部 (担当高知大学) で検討願うよう西島理事に依頼した。

(8) 入会承認

正会員 8 名, 団体会員 1, 学生会員 16 名の入会を承認した。

5. その他

- (1) 平成 16 年度理事会開催日程について, 資料に基づき説明があった。

別記

学会賞授賞規定改正

現 行	改 正
<p>学会賞の授賞については, 定款第 5 条, ならびに細則第 25 条, <u>第 28 条, 第 44 条および第 45 条</u>に定めるもののほか, この規定の定めるところによる。</p> <p>I 賞の種類</p> <p>1. 日本水産学会賞は, <u>功績賞, 進歩賞, 奨励賞, 田内賞および技術賞</u>の 5 種とする。</p> <p>2. 賞の性格</p> <p>1) <u>功績賞: 長年の研鑽により学術上ならびに応用上顕著な功績を挙げ, 本学会の発展に貢献した者に授与する。</u></p> <p>2) <u>進歩賞: 学術上ならびに応用上貢献著しい研究業績を挙げた者に授与する。</u></p> <p>3) <u>奨励賞: 優れた研究業績を挙げ, 将来一層の発展が期待される者に授与する。</u></p> <p>4) <u>田内賞: 物理的観点に立って展開され, 学術上ならびに応用上貢献著しい研究業績を挙げた者に授与する。</u></p> <p>5) <u>技術賞: 技術上著しい業績を挙げた者に授与する。</u></p> <p>II 受賞者の資格</p> <p>1. 受賞者は, 日本水産学会正会員に限る。<u>但し技術賞はこの限りでない。奨励賞受賞者は年齢 37 歳以下の者とする。</u></p> <p>2. <u>功績賞, 進歩賞, 奨励賞および田内賞の受賞該当業績は, 既印刷のもので, 少なくともその一部が学会誌に掲載されたものであることを要する。</u></p>	<p>学会賞の授賞については, 定款第 5 条, ならびに細則 16 条, <u>第 29 条, 第 34 条, 第 45 条および第 46 条</u>に定めるもののほか, この規定の定めるところによる。</p> <p>I 賞の種類</p> <p>1. 日本水産学会における賞は, <u>日本水産学会賞, 日本水産学会功績賞, 水産学進歩賞, 水産学奨励賞および水産学技術賞</u>の 5 種とする。</p> <p>2. 賞の性格</p> <p>1) <u>日本水産学会賞: 学術研究上特別に優れた業績を上げ, 水産学の発展に寄与した者に授与する。</u></p> <p>2) <u>日本水産学会功績賞: 長年にわたり水産学の発展ならびに体系化に貢献した者に授与する。</u></p> <p>3) <u>水産学進歩賞: 優れた業績を上げ, 水産学の発展に寄与した 37 歳以上の者に授与する。</u></p> <p>4) <u>水産学奨励賞: 研究に精進し, 将来の発展が期待される 37 歳未満の者に授与する。</u> (削除)</p> <p>5) <u>水産学技術賞: 技術上著しい業績を上げ, 水産学ならびに水産業の発展に貢献した者に授与する。</u></p> <p>II 受賞者の資格</p> <p>1. 受賞者は, 日本水産学会会員に限る。<u>ただし水産学技術賞はこの限りでない。</u></p> <p>2. <u>日本水産学会賞, 日本水産学会功績賞, 水産学進歩賞および水産学奨励賞の受賞該当業績は, 既印刷のもので, 少なくともその一部が日本水産学会の学会誌もしくは学術刊行物に掲載されたものであることを要する。</u></p> <p>3. <u>日本水産学会賞を受賞した者は, 日本水産学会功績賞以下のほかの賞を受賞することはできない。また水産学奨励賞を受賞した者は, 水産学進歩賞を受</u></p>

現 行	改 正
<p>III 授賞件数 功績賞は年3件以内、進歩賞は年3件以内、奨励賞は年5件以内、田内賞は年1件以内、技術賞は年3件以内とする。</p> <p>IV 学会賞選考委員会</p> <p>1. 学会賞選考委員会(以下、選考委員会という)は、<u>水産一般および水産化学部門それぞれ7名、計14名の学会賞選考委員(以下、選考委員という)をもって構成する。</u></p> <p>2. 学会賞選考委員長(以下、選考委員長という)および副委員長は、次の手続きにより選考委員の互選で定める。</p> <p>1) <u>水産一般および水産化学各部門の選考委員1名ずつ、計2名を連記で投票する。その結果、各部門において、それぞれ有効投票の最多数を得た者計2名のうち、前年度の選考委員長と異なる部門に属する者を選考委員長とし、他を副委員長とする。</u></p>	<p><u>賞することはできない。</u></p> <p>4. <u>日本水産学会賞、水産学進歩賞、水産学奨励賞および水産学技術賞受賞者は記念講演を行う。</u></p> <p>III 授賞件数 <u>日本水産学会賞は年2件以内、日本水産学会功績賞は年2件以内、水産学進歩賞は年4件以内、水産学奨励賞は年4件以内、水産学技術賞は年3件以内とする。</u></p> <p>IV 学会賞選考委員会</p> <p>1. 学会賞選考委員会(以下、選考委員会という)は、<u>学会賞選考委員(以下選考委員という)15名をもって構成する。</u></p> <p>2. <u>選考委員は支部評議員の投票により決定する。支部評議員は指定された4分野(A, B, C, D)および分野にとらわれず推薦したい枠(E)について各2名以内を全国的視野に立ち投票する。ただし、A~Dを重複して同一人名を記載することはできない。上記4分野とはA:漁業・資源(漁業、資源生態)、B:水産生物・増養殖(生物、種苗生産、養成、魚病、遺伝子、免疫)、C:環境(水圏環境)、D:水産化学(化学、生化学、食品、利用・加工)とする。</u></p> <p>3. <u>選考委員の選挙は次の手続きにより行う。</u></p> <p>1) <u>A~Dの4分野については分野ごとに高得票数順に2名を選出する。</u></p> <p>2) <u>次に総得票数順に7名を選出する。同一人がA~Eの分野・枠にまたがって得票した場合は、その総数をもって得票数とする。</u></p> <p>3) <u>すべての選出において得票数が同数の場合は、年長者順とする。</u></p> <p>4. <u>選考委員の任期は2年とし、引き続き再任することはできない。</u></p> <p>5. <u>学会賞担当理事を置く。担当理事は選考委員改選年次にまたがる引継ぎ事項を管理し、次期選考委員会に申し送る。ただし、学会賞担当理事は選考には加わらない。</u></p> <p>6. 学会賞選考委員長(以下、選考委員長という)および副選考委員長は、次の手続きにより選考委員の互選で定める。</p> <p>1) <u>選考委員長および副選考委員長は1年ごとに投票により改選する。選考委員は選考委員長候補者1名を記名して投票する。有効投票の最多数を得た者のうち、前年度の選考委員長と異なる分野に属する者を選考委員長とする。副委員長選出も同様の手続きによる。</u></p>

現 行	改 正
<p>2) <u>同一部門において最多得票者2名以上の場合</u>は年長者をとる。</p> <p>3. <u>選考委員長は選考委員会を招集し、その議長となる。選考委員長に事故ある時は、副委員長がその職務を代行する。</u></p> <p>4. <u>選考委員会は年2回、原則として日本水産学会大会時に定期的に開く。ただし、選考委員現在総数の3分の1以上から事由を付して請求があったときは、臨時にこれを開くことができる。</u></p> <p>5. <u>選考委員会は、水産一般および水産化学各部門の選考委員現在総数のそれぞれ2分の1以上の出席をもって成立する。</u></p> <p>6. <u>選考委員は、欠席する場合、議事について予め書面をもって意見を述べることができる。</u></p> <p>7. <u>選考委員長がやむを得ない事情と認めたときは、書面連絡をもって選考委員会の審議に代えることができる。</u></p> <p>8. <u>選考委員長は、審議の結果を書面をもって会長に報告する。</u></p> <p>9. <u>選考委員長は、選考委員会の議事録の写しを選考委員全員に送付する。</u></p>	<p>2) <u>最多同一得票者2名以上の場合</u>は、年長者とする。</p> <p>7. <u>選考委員長は選考委員会を招集し、その議長となる。選考委員長に事故ある時は、副委員長がその職務を代行する。</u></p> <p>8. <u>選考委員会は年2回以上開く。また、選考委員現在総数の3分の1以上から事由を付して請求があった時には、これを開かなければならない。</u></p> <p>9. <u>選考委員会は選考委員現在総数の2分の1以上の出席をもって成立する。</u></p> <p>10. <u>選考委員は、欠席する場合、議事について予め書面をもって意見を述べることができる。</u></p> <p>11. <u>選考委員会は所定の手続きによって推薦された者を対象とし、Ⅱ、Ⅲの要領にしたがって各賞ごとに定めた受賞候補者を選考する。</u></p> <p>12. <u>選考委員長がやむを得ない事情と認めた時には、書面連絡をもって選考委員会の審議に代えることができる。</u></p> <p>13. <u>選考委員長は、審議の結果を書面により会長に報告する。</u></p> <p>14. <u>選考委員長は、選考委員会の議事録の写しを選考委員全員に送付する。</u></p>
<p>V <u>学会賞推薦委員</u></p>	
<p>1. <u>学会賞受賞候補者推薦のため学会賞推薦委員（以下、推薦委員という）を定める。</u></p> <p>2. <u>推薦委員は、支部ごとに当該支部所属正会員の中から、水産一般および水産化学各部門2名ずつ、計4名を、支部評議員の投票により選出し、会長が委嘱する。</u></p> <p>3. <u>推薦委員の任期は1年とし、再任を妨げないが、ひきつづき2年を越えることはできない。</u></p>	<p>(削除)</p>
<p>Ⅵ <u>受賞候補者の推薦、選考手続</u></p>	<p>V <u>受賞候補者の推薦</u></p>
<p>1. <u>推薦手続</u></p> <p>1) <u>推薦委員または正会員は所定の形式に従い功績賞、進歩賞、奨励賞、田内賞および技術賞の受賞候補者を全国的視野に立って推薦する。</u></p> <p>2) <u>受賞候補者の推薦に当たっては、各賞1件以内の候補者を選び、所定の用紙により1件ごとに推薦理由および候補者の略歴を付して選考委員長あて推薦する。なお、功績賞については該当業績のできるだけ詳細な目録を添付する。</u></p>	<p>1. <u>推薦手続</u></p> <p>1) <u>日本水産学会会員は所定の形式に従い日本水産学会賞、日本水産学会功績賞、水産学進歩賞、水産学奨励賞および水産学技術賞の受賞候補者を広い視野に立って推薦することができる。</u></p> <p>2) <u>受賞候補者の推薦にあたっては、各賞1件以内の候補者を選び、所定の用紙により1件ごとに推薦理由および候補者の略歴を付して選考委員長あて送付する。なお、日本水産学会賞、日本水産学会功績賞については該当業績のできるだけ詳細な目録を添付する。</u></p>

現 行	改 正
<p>3) 受賞候補者推薦の期限は7月末日とする。</p> <p>4) 選考委員長は、被推薦者の一覧表を作成し、選考委員に配布する。</p> <p>2. 選考手続</p> <p>受賞候補者の選考は、所定手続によって推薦された者を対象とし、原則として秋季大会時の選考委員会において、各賞ごとに次の要領に従って行う。</p> <p>1) 功績賞：水産一般部門2件以内および水産化学部門1件以内、計3件以内を選考する。</p> <p>2) 進歩賞：水産一般部門2件以内および水産化学部門1件以内、計3件以内を選考する。</p> <p>3) 奨励賞：水産一般部門3件以内および水産化学部門2件以内、計5件以内を選考する。</p> <p>4) 田内賞：水産一般および水産化学両部門の中から計1件以内を選考する。進歩賞の候補者として推薦されたものの中から田内賞の候補者を選考することができる。</p> <p>5) 技術賞：漁業、増殖、加工などの諸分野の中から水産一般部門2件以内および水産化学部門1件以内、計3件以内を選考する。</p> <p>Ⅶ 受賞者の決定</p> <p>受賞者の決定は、選考委員会による受賞候補者選考の結果にもとづき、理事会の議を経て会長が行う。</p> <p>Ⅷ 賞の授与</p> <p>1. 賞の授与は、春季大会時の総会において行う。</p> <p>2. 賞は賞状、メダルおよび賞金とする。賞金は功績賞10万円、進歩賞5万円、奨励賞5万円、田内賞5万円、技術賞5万円とする。</p> <p>3. 賞に要する費用は本学会の経費をもってあてる。</p> <p>付則 本規定は、昭和45年6月27日より実施する。(昭和46年3月31日 一部改正。～中略～平成13年2月3日 一部改正。)</p> <p style="text-align: center;">学会賞選考委員会内規</p> <p>1. 奨励賞受賞者の年齢は当該年度末(2月末日現在)37歳以下の者とする。</p> <p>2. 受賞者は授賞対象業績1件につき1名とし、協力業績に限り連名とすることができる。ただし、連名とする場合は、指導者または単なる補助的役割をなした者を除く。</p> <p>3. 本学会細則第28条による農学賞その他の受賞候補者の推薦、選考に当たっては本規定の該当条項を準用する。</p>	<p>3) 受賞候補者の推薦は7月末日とする。</p> <p>4) 選考委員長は、被推薦者の一覧表を作成し、選考委員に配布する。</p> <p>(削除)</p> <p>Ⅵ 受賞者の決定</p> <p>受賞者の決定は、選考委員会による受賞候補者選考の結果にもとづき、理事会の議を経て会長が行う。</p> <p>Ⅶ 賞の授与</p> <p>1. 賞の授与は学会大会時の総会において行う。</p> <p>2. 賞は賞牌、メダルおよび賞金とする。賞金は日本水産学会賞10万円、日本水産学会功績賞10万円、水産学進歩賞5万円、水産学奨励賞5万円、水産学技術賞5万円とする。</p> <p>3. 賞に要する費用は本学会の経費を持ってあてる。</p> <p>付則 本規定は、昭和45年6月27日より実施する。(昭和46年3月31日一部改正。～中略～平成13年2月3日一部改正。平成16年4月3日一部改正。)</p> <p style="text-align: center;">学会賞選考委員会内規</p> <p>(削除)</p> <p>1. 受賞者は授賞対象業績1件につき1名とし、協力業績に限り連名とすることができる。ただし、連名とする場合は、少なくとも授賞対象業績の一部に共著論文を含むものとする。指導者または単なる補助的役割をなした者を除く。</p> <p>2. 学会細則第29条による日本農学賞そのほかの受賞候補者の推薦、選考にあたっては規定の該当条項を準用する。</p>

現 行	改 正
4. 功績賞の性格のうち、本学会の発展に貢献したものは役員、支部長、各種委員会委員長および大会委員長のいずれかの経験者をいう。	(削除)

別記

役員等選挙規定の一部改正

現 行	改 正
2 役員候補者（以下役員という）、評議員、学会賞選考委員の（中略）選挙方法は、選挙による。ただし会長指名の評議員を除く。 （昭和47年8月5日一部改正）（中略）（平成8年2月3日一部改正）	2 役員候補者（以下役員という）、評議員、学会賞選考委員の（中略）選挙方法は、選挙による。ただし会長指名の理事および評議員を除く。 （昭和47年8月5日一部改正）（中略）（平成8年2月3日一部改正） <u>（平成16年4月3日一部改正）</u>

入 会 者（平成16年4月3日入会承認）

正 会 員 （8名） 北海道 栗林貴範 関東 中山 寛 中部 細川貢基 近畿 秋田浩稔，奥西将之，古澤 巖
中国・四国 岡松一樹，谷山茂人

団体会員 （1） 佃農林水産消費技術センター

学生会員 （16名） 北海道 松田圭史 関東 日下美穂，難波亜紀，西川栄徳，村上彩奈 中部 田中基義
近畿 福西悠一，三田村啓理，安田十也 中国・四国 奥山里美，佐藤智美，中山健治，森 亜由美，
横江洋一，渡辺 貢 九州 任 同軍

訃 報

下記の会員が逝去された旨，ご連絡をいただきました。
ここに慎んで哀悼の意を表し，ご通知申し上げます。

正会員 北海道支部 中田 淳 氏